



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第42回例会(6月3日)
平成28年6月10日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
例会日 毎週金曜日12時30分～

会長 岩野 法光
幹事 吉江 信博
会報 福田 荘介
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Be a gift to the world. '世界へのプレゼントになろう'…………… K. R. ラビンドラン



ゲスト卓話

『少年鑑別所から見た非行』

盛岡少年鑑別所長

清水 大輔様

1 非行をめぐるあれこれ

少年非行は、以前よりも凶悪化し、動機がよく分からない意味不明なものが増えている、といった言説をよく見聞します。

少年鑑別所では、学校などから頼まれて少年非行についての話をする場合がありますが、その際、頼み手の抱く前提では「少年非行はまだまだ増え続けている。」と思っているふしが感じられることがあります。

本日は、少年鑑別所から見た非行というタイトルで、少年非行をめぐるあれこれについての話題提供をします。

なお、本日の話の内容は、犯罪白書など刊行されている資料を基にお話をしているということを御承知おきください。

(1) 少年非行は増えている？

戦後の少年非行を概観すると、昭和26年、同39年及び同58年をピークとする三つの波があったとされています。その三つの波のうち、最も高い波は昭和50年代半ばから昭和60年代にかけての「第三の波」であり、この時期は、遊び感覚で万引きや自転車の占有離脱物横領に及ぶ比較的軽微とされる非行（遊び型非行）が増えたといわれる時期でもあります。

昭和59年以降は、平成8年頃から同16年頃

にかけての一時期、減少の勢いが鈍るとともに、若干の増加に転じた時期がありますが、全体としては減少傾向が続いています。

ごく最近まで根強く残っている「少年非行は増えている。」という言説は、減少の度合いが一時的に鈍り、若干増加に転じたというごく一部の情報に着目してのものと思われ、いわば全国各地にある「ミステリー坂」のような現象といえることができます。

(2) 少年非行は凶悪化している？

次に、少年非行は凶悪化しているという言説です。

凶悪化という言葉は、実は何を指し示しているのかがよく分かりません。犯罪白書を見ると、犯罪・非行の統計においては、殺人や強盗といった事犯が「凶悪犯」とカテゴライズされて集計されているので、ここでは殺人及び強盗について見ていくことにします。

ア 少年による殺人

統計を見ると、戦後から昭和40年代の終わり頃までの間、殺人事件によって検挙された少年の数は年間400人前後で推移していました。しかし、昭和50年代初頭に大きく減少し、100人前後で推移するようになり、特に、平成20年代になってからは50人前後で推移していま

す。

少年による殺人は、著しく低水準で推移していることからすると凶悪化とは程遠い状態であることが見て取れます。

他方、殺人の態様を見ると、残虐な手段であったり、殺人にはおおよそ釣り合わないようなささいな動機で人を殺めていたりするといった、よく分からない殺人は確かにあるではないか。それでもなお凶悪化していないといえるのか、といった疑問も生じてくるでしょう。

しかし、この点についても、過去の事例と比較して、近年、凶悪さが増したという例は見当たりません。むしろ「古き良き時代」とされる昭和の頃の少年事件の方が凶悪だったりもします。

刊行されている資料から読み取れるだけでも、昭和の時代には、次のような事件があります。

- 政党政首による演説会の最中、壇上に登り政党政首を刺殺する。
- ライフルで警官2名を殺傷する。
- 高校生が同級生を殺害し、首を切断して放置する。
- 小4女児が小2女児をマンションから突き落として殺害する。

つまり「少年による残虐で凶悪とされる非行は一定数発生している。」というのがより適切な見方といえるでしょう。

ではなぜ、最近少年非行が凶悪化したと感ずるのか。

端的に言えば「珍しくなったから。」だと考えられます。

殺人を例にとれば、少年による殺人そのものが減ってただでさえ希少性が増していることが一つ。そして、過去の類似の態様の事件があったとしても、忘れ去られているといったこともあるでしょう。それゆえにニュースバリューが上昇し、情報のシャワーといった状態が発生し、それに曝された結果「少年非行は凶悪化している。」という「都市伝説」が生まれ

てしまっていると思われます。

イ 少年による強盗

少年による強盗事件も殺人と同様に昭和50年代半ばころに大きく落ち込みましたが、平成10年代に一時的に増加した時期を経て、平成20年代に入った頃から低水準に落ち着くといった経過をたどっています。

こちらは、平成に入ってから統計が増加に転じた時期があり、一見すると、強盗をするような凶悪な少年が増えた、だから少年が凶悪化しているのだ、と早合点されそうです。

しかし、この時期に増えた強盗は、いわゆる路上強盗です。具体的には「おやじ狩り」と呼ばれるものであり、少年が「ひったくり」を行った際に被害者が転倒してけがをしたことを捉えて強盗致傷として検挙されるといったものでした。

強盗といえば、なんとなく民家や銀行などに押し入り、刃物をかざして金品を奪う、といった印象もあります。もちろん、少年による非行で、この手のものも時折目にします。しかし、こういった「伝統的」ないしは「正統的」な非行を目にする機会は減ってきている現実があります。

ウ 少年非行は全体的に沈静化しつつある。

元気で乱暴な非行少年らしい非行少年は少なくなり、むしろ、非社会的で友達の少なそうな、どちらかといえば内向的な少年が目立つようになってきました。

このことは、少年院や少年鑑別所で勤務する職員による非行のあるとされる少年に対する一般的な印象です。

(3) なぜ少年非行は減ったのか

この問いに対する明確な答えは得られていません。

最も確からしいのは、少年人口が減ったから件数も減ったという説明です。確かに、戦後非行の第三の波がおさまリ、少年非行が減少に向かっていった平成6、7年頃までは、この説明が

最も説得力を持っていました。しかしながら、少年非行は平成10年代半ば頃には減少の動きが鈍った時期があります。こういった動きを見ていると、人口が減ったから少年非行も減ったという、そんな単純な話ではないようです。

犯罪・非行は、個人の資質のみで起こるものではなく、親のしつけや教育の失敗のみで起こるものでもありません。もちろん、社会の治安、経済情勢、地域の景気、より直接的には、警察の検挙・取締りの方針によっても影響を受けます。アメリカの犯罪学者の中には、刑務所を作るから犯罪が増えるのだ、といったことを主張する人もいます。

個人の資質と生後の養育、教育、その折々の社会情勢などが複雑に絡み合う中で、ある一定の人数の人が非行に走り、大多数の人は検挙に至るまでの非行には走らない。また、非行少年と呼ばれる人たちも、24時間、のべつ非行をしているわけではありません。どんな人がどんなときに非行に走るのか、走らないのか。非行に走る人はどんな人で、走らない人はどんな人なのか。

実際的な非行対策を考えるに当たっては、なるべく多方面の情報をつぶさに集め、分析していく作業が必要になります。

そんな非行の分析を行うために設けられたのが私の勤務する少年鑑別所です。

2 少年鑑別所

(1) 概要

少年鑑別所は、戦後間もない昭和24年(1949年)、現行少年法とともに誕生した法務省所管の施設です。全国の都道府県庁所在地など52か所に設置され、岩手県には、盛岡少年鑑別所が置かれています。

少年鑑別所の業務は、鑑別と収容、そして、地域における非行や犯罪の防止のための活動の援助の三つを柱としています。

ア 鑑別

少年法でいうところの少年、すなわち20歳

未満の男女について、医師の診察、心理技官による面接や心理検査、観護教官による行動観察などを通じて、その人の人となり、非行に走った原因、非行からの立ち直りの方法などを明らかにしていく営みを総称して鑑別といいます。

その種類は、家庭裁判所の行う調査や審判に資するために行う審判鑑別、少年院送致決定を受けた少年の送致先少年院を指定するために行う指定鑑別及び保護処分を受けている者等を対象に行う処遇鑑別などがあります。

いずれも、医学や行動科学の知見を活用して、多面的・総合的に非行のある少年一人一人の問題の解明に取り組んでいきます。

イ 収容

主に家庭裁判所の決定に基づいて、年間約1万人弱の非行のある20歳未満の男女の収容を行っています。家庭裁判所が1年間に取り扱う少年事件は約10万件であることから、少年鑑別所には、態様が悪質であったり重かったりするもの、深刻な問題を抱える少年たちが集まってきます。

平均的な在所期間は3ないし4週間程度です。この間、在所者は鑑別を受け、その結果は家庭裁判所に「鑑別結果通知書」として提出され、審判に役立ててもらっています。

ところで、少年鑑別所に収容された少年は、教育や指導を受けることはありません。むしろ、少年鑑別所内では、静かで明るい環境の下、規則正しい生活を送る中で、その少年のありのままの姿を見ていくことが求められます。

ががが怒られたり、指導されたりしなくても、静かな環境で落ち着いて大人(専門家)と話をします。こうした静かな働き掛けの中で、少年は、これまでの生活を振り返り、これから立ち直っていくための方法を考え始めます。

少年鑑別所内のこういった働き掛けは「教えないことによる学び」ともいえるべきものです。改めて、困った人たちの対処の仕方や、規則正しい生活を送ることの大切さに気付かされると

ころです。

ウ 地域援助

余り知られていませんでしたが、少年鑑別所では、一般の方々にも相談窓口を開いており、細々と相談活動を行ってきました。昨年6月、少年鑑別所法が施行されたことに伴い、こうした一般への窓口を拡大し、少年鑑別所の持つ様々な情報を地域の非行や犯罪の防止に役立てていただく活動を開始しています。

非行や問題行動に関する相談、小中学校等に対する法教育授業、各種非行に関する講演等々、皆様の御要望にお応えしていきます。もし、身の回りに非行の問題でお困りの方がいらっしゃる、少年非行についての話題提供をしてほしい

等々の御要望がありましたらお声をお掛けください。

また、百聞は一見に如かずという言葉もございます。もし御興味を持たれた方がいらっしゃれば、少年鑑別所というものを直接見ていただくこともできます。どうぞお気軽に、盛岡少年鑑別所に御予約をお願いします。

○盛岡少年鑑別所

(法務少年支援センターいわて)

〒020-0121 盛岡市月が丘二丁目14-1

☎(代 表)：019-647-2206

(相談窓口)：019-647-2205

例 会 報 告

第42回例会
平成28年6月3日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 岩野法光会長
- ・ソング 奉仕の理想
- ・ゲスト 清水大輔様 (盛岡少年鑑別所 所長)
- ・会長報告 岩野法光会長
- ・皆出席バッチ 近藤 駿君 (30年)・藤村文昭君 (20年)・星 克彦君 (5年)・海野 尚君 (2年)。
- ・入会祝 近藤 駿・金沢 滋君。
- ・誕生祝 佐藤義正・勝 雅行・乳井隆明君。
- ・結婚祝 乳井隆明・福田荘介・米内 正君。
- ・幹事報告 吉江信博幹事

【ニコニコBOX】

- ◆米内 正君…東京で麻酔科医をしております愚息に、待ちに待った男児が誕生しました。私ども夫婦にとっては初孫になり、とても嬉しいのでニコニコします。
- ◆長野隆行君…先日行われた盛岡クラブ、盛岡北クラブとの合同ゴルフコンペでは、因らずも優勝してしまいました。パートナーの熊谷(隆)・岡本・海野の各会員の暖かい支えがあつての事でした。また、準備をされた星親睦委員長さんにも大変お世話頂きました。ありがとうございます。又、優勝カップまで頂き大変恐縮しております。因みにスコアは聞かないで下さい。
- ◆藤村文昭君…先週の例会には所用があり出席できませんでしたが、会報にて長野先生の卓話を読みました。たいへんなつかしくなつかしく長野年度の出来事を思い出しました。長野先生はずいぶんと詳

しく記憶されており、充実した一年だったのだと改めて感心致しました。私は残念ながら自分の会長年度の事は全く覚えておりません。会報の中ではずいぶんと私の名前を出していただきまして、親睦委員長と70周年行事でたいへんごき使われましたのでニコニコします。

- ◆佐藤善通君…2年間本当にありがとうございました。盛岡大好きです。また必ず戻ってきます。
- ◆平賀和幸君…わずか2年で転勤することになりました。せめてあと1年…とと思っていましたが残念です。楽しい2年間をロータリーの皆さまのおかげで過ごす事ができました。深く感謝してニコニコします。

●メークアップ

盛岡北R.C.=佐藤(仁)君。盛岡東=藤村(文)・熊谷(祐)・佐藤(善)君。クラブ委員会=橋本・平野・金沢・勝・大平・海野・吉江君。

出席報告 □ 会員数 / 70 名 □ 出席数 / 44 名 □ 出席率 / 64.7% □ 前々回 / 77.94%

プログラムの
お知らせ

- ・6月10日(金) 新入会員卓話 佐々木憲明君「話の種に一歯の種(たね)があつたらー」
- 17日(金) 第4回クラブアッセンブリー
- 23日(木) ターミネートパーティー(24日例会変更)

- 本号編集担当 / 金沢 滋
- 次号編集担当 / 藤田 治彦